

中学校 音楽科 学習指導案（訂正版）

指導者 原 寛暁

日 時	令和5年11月25日（土） 第2限 10:35～11:25
場 所	第2音楽教室
学年・組	中学校1年A組 41人（男子21人 女子20人）
題 材	イメージに基づいた協働的な合唱づくり
目 標	1. 混声3部合唱を行うために必要な知識・技能を、これまでの学びを振り返って統合的に工夫し活用する。（知識及び技能） 2. 教材曲から得られるイメージを可視化し、それに基づいて表現の工夫を行う。（思考力、判断力、表現力等） 3. 楽曲の良さや味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に合唱の学習活動に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

指導計画（全10時間）

第一次	教材曲の参考音源の鑑賞・パートの把握	1時間
第二次	楽譜や歌詞から得られるイメージを映像等で描き、共有する	1時間
第三次	歌詞の読み込み・各パートの練習・楽曲の全体構造把握	2時間
第四次	3つの小グループによる合唱活動・相互発表・相互鑑賞	3時間
第五次	小グループ毎に工夫した表現の工夫を全体で共有・合唱練習	2時間…(本時 1/2)
第六次	全体合唱形式による表現の工夫を深める活動	1時間

授業について

本題材は、個々の持つ異なったイメージを相互に発信し、共有する手がかりに溢れているので、幅広い表現を行う可能性を持っている。

対象クラスの1学年A組の生徒たちは、音楽活動に全般に前向きで、特にリーダーの役割を担う生徒は多い。課題は、そのような生徒の陰に隠れて自分の意見を集団の中で発信する生徒が限られていることである。小グループ活動の中で、個々に違ったイメージを発信し共有することで、より主体的な態度を育むことをねらいとしている。

この教材を扱った活動の中で、個々のイメージをコミュニケーションを通して共有し上げ、表現の工夫に結びつける材料を多く発見していく機会を与えたい。話し合いの時に、授業者は響きやフレーズ、強弱のメリハリや言葉の扱いなど具体的な技術の選択肢を提案し、生徒自身が発見していくための支援を行う。教授と支援をバランス良く配置する舵取りが不可欠であろうと考えている。

本時の目標

1. 楽曲の流れに沿って、イメージに向かう技能を整理し、歌唱表現に生かそうとする。（知識及び技能）
2. イメージの発信と共有を行う。（思考力、判断力、表現力等）
3. 表現の工夫について、自分の思いを積極的に発信できる。（学びに向かう力、人間性等）

本時の評価規準（観点／方法）

1. イメージに近づくための表現の工夫を適切に選択している。（知識、技能／生徒の演奏の録音）
2. イメージの発信・共有を通して、歌唱表現の幅が広がっている。（思考力、判断力、表現力等／生徒の活動観察）
3. 表現の工夫について、自分の思いを積極的に発信するなど、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。（学びに向かう力、人間性等／生徒の活動観察）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
（導入）15 分 ・イメージを共有する （展開）15 分 ・小グループによる活動 （まとめ）20 分 ・班別発表と相互鑑賞 ・全体合唱（2 番から）	・グループの席に着席 ・全体合唱（2 番から～声出し） ・生徒のイメージを相互鑑賞する（活動班ごとにまとめたものを鑑賞） ・前時に記入した「相互評価カード」を閲覧し、グループ活動に生かせるように話し合う。 ・3 つのグループに分かれて、小グループ活動を行う（表現の探究） ・評価カードに、自己評価と他グループの演奏を鑑賞しての感想を、具体的に記入しておく ・評価カードに記入する	・合唱する雰囲気づくりを行う ・パワーポイントにまとめておく（この楽曲について当初抱いたイメージを思い出して共有する） ・授業者は、巡回指導を行う。難航しているグループに対して、適切に支援を行う＞話し合いの視点:イメージを表現するために必要な音楽的要素は何か。（授業者は具体的方法など、生徒の選択肢を広げる） ・場所を移動する 1) 第 1 音楽教室のピアノ側（円陣） 2) 第 1 音楽教室の指揮台付近（円陣） 3) 第 2 音楽教室のピアノ周り ・発表者が自信をもって評価できるように、雰囲気をつくる ・班別活動で得た成果を、今度は全体表現に広げ生かすためにはどのようなことが必要になるか。考えるきっかけを与え、導く ・演奏を録音して、次時に生かす
準備物：楽譜、録音機、前時の相互鑑賞用評価カード（短冊） 板書計画：本時の目標・授業の流れ・時間配分		

11/25_2限 1年A組 音楽（合唱）小グループ活動→合唱活動

練習カード/相互評価カード

- ① 他のグループの発表を聴いて、評価（良かったこと・課題 どちらも具体的に伝えることが非常に大切です）

（_____グループ）

A) すでに良かったこと

B) 今後頑張ったらできそうなこと

（_____グループ）

A) すでに良かったこと

B) 今後頑張ったらできそうなこと

- ② 自分のグループについて、（発表を行ってみての）自己評価をしてみよう☆

（_____グループ）

- ③ 小グループから、クラス全体の合唱に広がりましたね。

A) 小グループ活動を通して成長したことは、どんなことがありましたか？

（例）1人1人の意見がグループ全体で共有できるようになった。・・・などなど

B) 全体合唱で意識していくと良いと思われることを、記述してみよう。

実践上の留意点

1. 授業説明

この授業計画では、対象を中学1年生のクラスに設定した。全教科の共通テーマである steam 教育を意識しつつ、生徒が主体的にかつアクティブに合唱活動を進める姿を育てる。ということを目指すものであった。また教科横断的な点にも着目し、美術科での学習も取り入れた授業展開を構想した。

具体的に展開した授業の様子は、以下の通りであった。クラスを3つの男女混合のグループに編成し、基本的な活動の筋道を示したあと、生徒はグループ毎のリーダーを中心とした練習を進めた。教材は、混声3部合唱曲「君と歩こう」を取り上げた。悩み苦しみながらも、親しい人と共に前向きに歩いて行くことをテーマとした良曲である。このクラスは歌唱に限らず色々な活動に前向きに取り組む姿勢があり、協力して工夫点を出し合いながら練習を進めていった。ただし、各パートでの音取りは確実なものにしなければならないので、前半は「パート練習」後半は「グループ練習」という流れで授業を展開していった。

授業計画中ほどで、「この曲に出会った当初の新鮮なイメージを思い出し、絵に描いてみよう」という時間を設け、曲のイメージを20分間で絵に描いてみて、それらの作品を後日みんなで鑑賞をし合うという取り組みを行った。これは授業者が「お絵描きタイム」と名付けて複数曲で継続して行っている取り組みであった。この中で、生徒たちは「同じ曲・歌詞だから、共通点もたくさんある」「しかしそれぞれ違って個性がある」ということに気づき、授業者は「歌唱表現も同じだよ」ということに結び付ける声かけを行った。また、前学期に美術科で実践をされた「〇〇な感じ」の作品を振り返り、音楽での「お絵描きタイム」との比較でより具体的なイメージの獲得が出来たものと思われる。課題は、音楽の場合「曲のイメージ」を音楽表現が重要な手掛かりになるものの、直結はしにくいものであって、そこで大いに悩むことをまさに授業者は期待していたが、そのプロセスにおいて強めのサポートが必要だったことは、中学校1年生の特徴であろう。また、男子と女子に活動姿勢に開きがあり、意図的に混合をしてやらなければならなかったことは否めない。また、この授業計画は「校内研究授業」で公開したものと内容は連続しており、課題を抽出して実践に移したという流れであった。様々なクラス実態があるなかで、より良く一般化できる方法論を更に研究し、実践を通して深めていきたい。

2. 研究協議

- ・協働的な授業で、はじめの合唱に比べると生徒一人一人の表現（姿勢・表情）が向上した。それは、小グループの過程でいかに一人ひとりが真剣に取り組む、協働したかが伝わった。
- ・まとめの合唱で向上した点を、次時にいかに繋げるかという点が重要になるであろう。
- ・絵の鑑賞を、音楽科の視点ではどのように捉えたのか。「芸術」の特徴である「言葉を越えた何か」を、絵の力でどのように表したのかが知りたかった。
- ・全体テーマである「steam 教育」への足掛かりとしての取り組みであったことは良く分かったが、本来はもっと視点の広いものである。今後は芸術という枠にとらわれず、科学技術や社会文化、言語などとの関りも見通した実践を目指してほしい。